

平成三十年度 江戸川看護専門学校 入学試験問題

国語
(第一回試験)

注意

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 試験時間は五十分とする。
3. 受験番号、氏名を解答用紙に正確に記入すること。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. その他の注意事項は、試験官の指示に従うこと。

一

次の①～⑩の各文中の傍線部のカタカナを漢字にせよ。

- ① グレツな行為を非難する。
- ② グウゼンの一致。
- ③ 一時間のキュウケイ。
- ④ 憲法をジュンシユする。
- ⑤ 大きなギセイを払う。
- ⑥ 試合にセキハイする。
- ⑦ 山でソウナンする。
- ⑧ 飛行機がツイラクする。
- ⑨ 巨匠の作品をモホウする。
- ⑩ ロウデンによる火災。

二

次の①～⑤の言葉の意味を選択肢から選び、記号で答えよ。

- ① システム
- ② モラトリアム
- ③ インテリゲンチア
- ④ プロセス
- ⑤ ダイナミズム

- ア 過程
- イ 体系
- ウ 活力
- エ 仕組み
- オ 猶予期間
- カ 知識人

三

次の()の中のカタカナを漢字にして四字熟語を完成させよ。

- ① 戦国の世は(ゲンユウ)割拠の時代であった。
- ② 彼の話に皆は抱腹(ゼットウ)した。
- ③ 前代(ミモン)の出来事が起こった。
- ④ (フエキ)流行とは、芭蕉の文学理念である。
- ⑤ 旧態(イゼン)とした体制。

四

次の語句の意味として最も適切なものをそれぞれの選択肢から
選び、記号で答えよ。

① 麒麟児

- ア 人々を統率する力に秀でた若者
- イ 意気盛んな若者
- ウ 人並み外れた魅力をもった若者
- エ 優れた才知をもった若者

② 健啖ぶり

- ア 盛んによく食べる様子
- イ 元気でよくしゃべる様子
- ウ 物事にこだわらない様子
- エ 明るく朗らかな様子

③ 狡猾

- ア ずるがしこいこと
- イ 洞察力の鋭いこと
- ウ 冷酷なこと
- エ 情熱的なこと

④ 些末な事柄

- ア 末端的で特殊な事柄
- イ 正確さに欠ける事柄
- ウ 取るに足りない事柄
- エ 心情的で微妙な事柄

⑤ 潮時

- ア 満潮の時刻
- イ ふさわしい時期
- ウ 飽きてきた頃
- エ 手を引く機会

五

次の語句の対義語を後の語群から選び、カタカナを漢字にして答
えよ。

- ① 入門 …… ()
- ② 否定 …… ()
- ③ 絶対 …… ()
- ④ 傑作 …… ()
- ⑤ 普遍 …… ()

【語群】

ダサク・ソウタイ・トクシユ・イツパン
コウテイ・ハモン

六

次の文学史について各設問に答えよ。

① 次の選択肢の中から芥川龍之介の作品を一つ選び、記号で答えよ。

- ア 山月記 イ ころも
- エ 地獄変 オ 舞姫
- ウ カインの末裔

② 次の選択肢の中から葉山嘉樹の作品を一つ選び、記号で答えよ。

- ア セメント樽の中の手紙 イ 走れメロス
- ウ 桜の森の満開の下 エ 或る阿呆の一生
- オ 蟹工船

③ 次の選択肢の中から坂口安吾の作品を一つ選び、記号で答えよ。

- ア 外科室 イ 白痴
- エ 痴人の愛 オ 野菊の墓
- ウ 伊豆の踊り子

七

次の文章を読んで後の問一～問六の設問に答えよ。
句読点も一字として数えるものとする。

今日の都市生活に欠かせない行列という社会現象がある。行列という形式そのものは、カラハリ砂漠の狩猟採集民サン人が狩りなどで遠出するときにも生まれ、西洋では戦争の捕虜を行列させたことが古代の歴史書にもみえる。しかし、モノを手に入れたりサービスを受けたりする順番を待つ行列は、近代の工業化社会に特有のものだろう。小さな個人商店では並ぼうとする買物客はいないが、スーパーマーケットでは工場のアセンブリ・ラインのように、客がレジで列をつくることが前提にされていることは行列の工業社会的性格を①タンテキにしめしている。

駅の切符売場やタクシー乗り場や学生食堂などでの行列は以前からあったが、近ごろではデパートのトイレの前や、昼食時の都心の食堂でも行列はあたりまえの光景になった。今日の大都会がそうであるように、一般にモノやサービスの需要——供給関係に一定程度以上の不均衡があるところでは、どこでも行列ができる可能性がある。難民キャンプの行列ではモノの②Aの不足が強調され、モノやサービスの③Bに不足はないはずの現代日本のアイスクリーム店やコロッケ屋の前の行列では④Cが浮き彫りにされる。

しかしながら、たとえ需要——供給に⑤ケンチョな不均衡があっても、身分や地位にかかわらず先着優先の原則がなければ、だれも列をつくって順番を待とうとはしないだろう。行列が⑥ヒンパンにみられる現代の公共的場面では、年齢や社会的地位や性差や人種差などは体系的に無視されるが、そうした先着優先の平等主義がないところでは行列は生まれ

ない。行列をつくって順番を待つという習慣は、たとえば士農工商の身分制社会ではかんがえられないように、元来が西欧の近代社会に特有な行動様式なのである。

さらにいえば、行列は用件をひとつずつかたづけるといって近代的事務処理の発想に根ざしている。

以前ギリシアで調査中に気づいたことだが、ギリシアの役所や銀行などでは、相談事をもってくる人を、先客にかまわずつぎと自室に入れば、用件を聞いて、処理しやすいものから答えていくというやり方をとることが多い。アラブ社会でも伝統的には同様な方式がとられるようだが、このような事務処理の習慣をもつ社会には行列はなかなかないようだ（ギリシアなどでは、行列は後ろの者もやりとりがみえるように横並びになる傾向がある）。

このように、すぐれて近代的慣行である行列には独特の論理と構造がある。

行列はもちろんその前段階、「行列以前」からはじまる。飛行機の国内便に乗るために、出発一時間半くらいも前に空港にいつて待機してみたりするとわかるが、そんな早い時間にもチェックイン・カウンターのあたりにはたいして何人か様子をうかがうようにして立っている人がいる。だれかがカウンターの前に立つと、すぐ後ろに行列ができる。あまり人が少ないと早くから並ぶのもバカバカしくて苦痛だが、その間にもたいがいの着順と位置を目で確認していて、だれかが並んだとたんに心配になって並ぶのだろう。電車を待つ駅のホームなどでもおなじようなことがおこることがある。サービスを⑦セツパクして⑧側よりに先にあつまり、需給関係がさほど⑨セツパクしていないときにこのよ

うな「半行列」が胚胎する。

また、客ひとりのあいだは、待つ側の客と待たせる側の店員や係員との心理的關係だけが問題だが、客がふたり以上になって列ができると、そこに待つ者同士の社会的問題がくわわってくる。ひとりで待たされて、いるあいだは、無力感や退屈や苛立ちとたたかっていたらよいのだが、行列ができたたん、割りこまれないように、礼儀の範囲内で相互監視しなければならぬ。新聞や雑誌をひろげてみても、目を周囲にくばり、とくに前方に一定以上の間隔をあげないよう徐々に前にすすまなければならぬから、落ちついて読むことはできない。待つことは副次的活動ではありえず、どうしてもその場の「主要関与」にならざるをえないのだ。

そうした行列では、並んでいる人びとのあいだの距離は、一般に前方より後尾で大きくなる。前にすすめばすすむほど目的志向性が^⑤センメ^イになるのに対して、目標の順番がまだ遠い後方では待ちながら注意がほかにも向けられるからだろう。また、待つ者が多く、行列が長ければ長いほど目的志向性が無意識にも強調され、並ぶ人間の身体間の距離は縮まることも観察できる。

行列について一書をあらわしたアメリカの社会学者、B・シュワルツによれば、行列に並ぶ不快感、待たされる側の待たせる側に対する無力感や、その間ほかの有益なことができるはずだという焦燥感とともに、知らない人間といっしょにいることの不安感に由来するのべている。

もちろん、仲間と連れだつて野球の切符を買う行列に並んだりするのは、苦痛どころか大きな楽しみだろう。ひたすら前方を志向する行列の禁欲的性格が陽気な社交色に塗りがえらるからだ。しかし、ⁱⁱそんな

場合をのぞけば、知らない者と接近する不安や不快感、たんなる^⑥雑踏とは違って、行列のなかでは、前の人の後頭部や背中をみせられる「フェイス・トゥ・フェイス」(対面)ならぬ「フェイス・トゥ・バック」(対背面) いうきわめて特異な相互交渉が生じるためにいっそう高じる、とシュワルツは指摘している。日本語で「背を向ける」とは無視や拒絶を意味するが、欧米社会でも同様で、相手から背中をみせられれば、冷やかに無視され、おとしめられることにほかならない。

したがって、他人の背中なぞみたくないのは当然だが、さらに不愉快なのは、自分の背面を後ろの人にみせることになることだ。だれでもからだの背面は前面のようにコントロールがきかず、身だしなみがゆきとどきにくい。当惑するような汚れがあるのではないかと後ろの人の視線に落ち着かない気分させられる。行列に並ぶことは、そのように美的にも象徴的にも^⑦隠蔽すべき身体部位を見知らぬ人間の視線にさらすことになる。

こうして、行列はみたくない背中をみせられ、みられたくない背中や後頭部をみられるという「前憂後患」の二重苦に人をおとしられる。この苦痛はじつさいには斜めに向いて立つことでいくらか緩和される。また、たまたま先をゆずられたときの解放感でつかのま苦痛を忘れたりもする。が、ともかくこれがⁱⁱⁱ公共の場での効率と平等原理のためにわたしたちが支払う代償なのだ。

イギリス人やアメリカ人は行列をあたりまえのように考えるようだ。しかし、ギリシアなどヨーロッパでも工業化がおくれた社会の人びとは、そんな行列もヒツジの群れのようにみえるらしい。

^{iv}民主主義には一定の均質性が必要だが、行列を見ていると、工業化

社会が近代民主主義の母胎であることがよくわかる。

(野村雅一『身ぶりとしぐさの人類学』より)

*アセンブリイ・ライン……大量生産の流れ作業の列

*胚胎……始まること

問一 二重傍線部①～⑦のカタカナを漢字にし、漢字は読みをひらがな

で答えよ。

問二 文中の空欄 **A** ～ **C** それぞれに次のいずれかの語を入

れ、記号で答えよ。

ア 需要 イ 供給

問三 傍線部 i 「すぐれて近代的慣行である行列には独特の論理と構造がある」とあるが、それはどのような考え方に基づいているのか。文中から二カ所探し、それぞれ十字以内で抜き出して答えよ。

問四 傍線部 ii 「そんな場合」とは、何がどうなる場合か。二十五字以

内で説明せよ。

問五 傍線部 iii 「公共の場での効率と平等原理のためにわたしたちが支払う代償なのだ」とあるが、行列に並ぶことで生じる「代償」とはどのようなことか。文中の表現を用いて四十字程度説明せよ。

問六 傍線部 iv 「民主主義には一定の均質性が必要だ」ということを説明した次の文の空欄に入る語を文中から四字で探し、抜き出して答えよ。

民主主義の基本は () であるということ。

